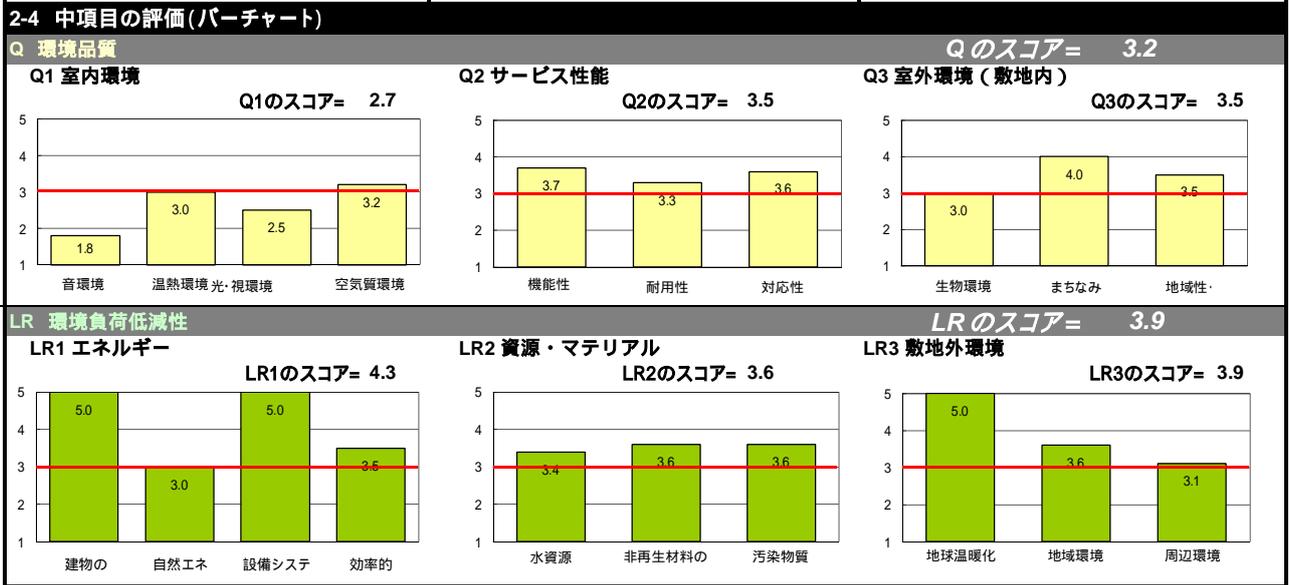
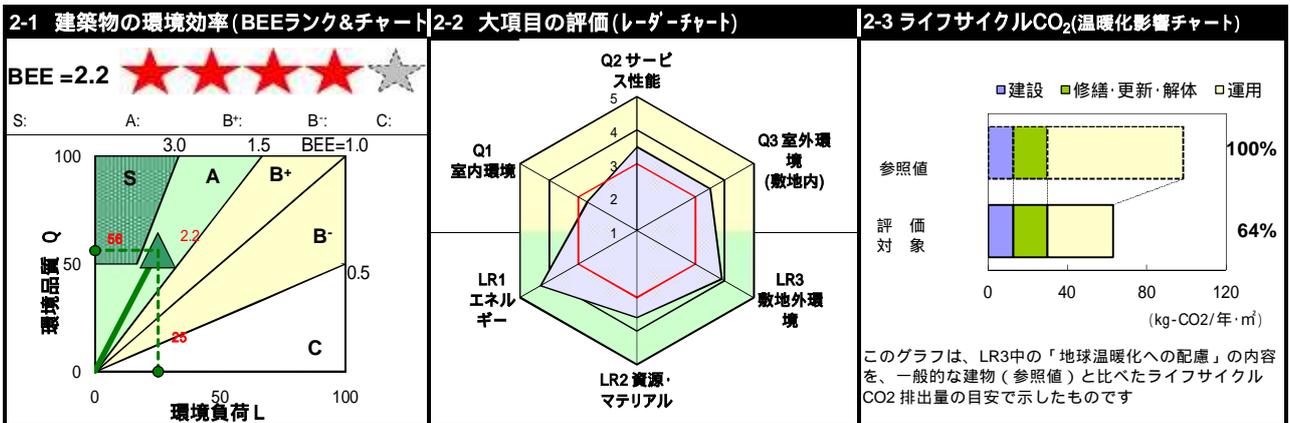


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	西部総合職業技術校	階数	地上3F
建設地	神奈川県秦野市桜町二丁目1-3	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	490人
気候区分	地域区分	年間使用時間	1,800時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2011年3月18日
敷地面積	25,151 m ²	作成者	(株)金子設計
建築面積	11,034 m ²	確認日	2011年3月18日
延床面積	16,400 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合	東側3階建ての建物は、旧大秦野高校の校舎3階建てよりセットバックし、近隣住民への住環境(日照、景観)に配慮し、旧グラウンドであった部分には平屋建ての実習棟を可能な限り南側へ配置し、北側には緑地帯、敷地内通路を設け、圧迫感を和らげる計画とした。また自然エネルギー(太陽光発電システム、中水利用)を積極的に採用している。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
廊下や更衣室など自然光の確保が出来にくい部分にはトップライト(昼光設備)を設けており、施設管理及び運営の中で施設全体を禁煙とし、非喫煙者が煙に曝されないような対策を取られている。	各所便所の男女いずれかに掃除用流しを配置し、建物内のごみ箱設置場所(市基準の分別)を確保している。また、屋外では廃棄物置場を分散配置している。	周辺山並みに沿った屋根形状(実習棟)とし、南側道路沿いは周辺住民が歩行する際に四季を感じられる植栽計画とするとともに舗装部分には透水性舗装を採用している。また、秦野市景観条例のマンセル値内で周辺に沿っ
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
太陽光発電システムの導入、熱源機器の台数制御、高効率照明器具等を採用し、省エネルギーを図る。	節水器具、雨水利用による水に対する省資源対策をおこなう。ラップルコンクリートにグリーン調達品(高炉セメント)、舗装路盤材に再生砕石を採用。	敷地面積の約3割を透水性舗装として地表面地覆材に配慮し、かつ、緑地の面積を24.6%確保し、敷地外への熱的影響を低減している。また、クールテントによる外気導入を採用。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される